

一 般 質 問 要 綱

令和5年第8回12月定例会

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
1	13	後 藤 誠 司	1 小中学校適正規模適正配置について 市立小中学校適正規模適正配置第1次実施計画（案）については、7月の全員協議会において説明があり、その後7中学校区ごとに地域説明会が行われました。地域説明会での意見や要望は庁内検討委員会等で検討し、審議会で意見集約をし答申を得るということでした。 11月17日の全員協議会では、地域説明会での意見や請願の採択などを踏まえ、「熱塩小学校と加納小学校の統合は令和7年度に前倒しし、新たな小学校の場所は、早期の統合を実現するため、現在の加納小学校とする」ということに変更する。また、変更後の計画（案）については、11月1日の審議会より「適当と認める」との答申を受けたとの説明がありました。 そこで、以下の点を伺います。 (1) 8月21日から7中学校区ごとに実施された地域説明会のそれぞれの参加人数と主な意見について伺います。 (2) 第1次計画策定後の地域での合意形成について ア 保護者会、行政区長会、教育委員会とで合意書を作成することですが、7中学校区全てなのか、第1次計画に係る地域だけなのか伺います。 イ 保護者会、行政区長会の合意形成はどのような方法で行うのか伺います。 (3) 合意書作成後の進め方について伺います。 2 農業問題について 今年の夏は近年にない猛暑少雨でありました。市民生活へも大きな影響を及ぼしましたが、自然を相手にする農作物にも甚大な影響がありました。 そこで農業問題について、以下の点を伺います。 (1) そばの作柄が、播種時及び生育期の水分不足で発芽不良や生育不良により悪く、種子の確保がやっという状態のところもあります。不作に対する支援があるのか伺います。 (2) 園芸作物や秋野菜に対する影響をどのように捉えているのか伺います。 (3) 水田活用における直接支払交付金の交付対象水田の見直しについて ア 昨年唐突に国は、5年間に一度も「水張り」がない農地は、交付対象水田から除外する方針を示しましたが、市の対応を伺います。 イ 畑地化支援を希望している件数と面積及び支援の見込みについて伺います。
2	19	佐 原 正 秀	1 防災力の強化対策について 自然災害が頻発化する昨今、防災に対する住民の意識は以前より高まってきております。そして、住民の生命、身体及び財産を災害から保護する責務があるのが自治体であり、常に不測の事態に備え、用意

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			周到に準備をしておく必要があります。特に河川の治水・浸水対策、防災システムの整備は重要な課題であり、住民生活を守るための施策が求められますが、本市の取組についてお尋ねいたします。 (1) 河川の治水・浸水対策について (2) 情報共有を強化できる防災システムの整備について 2 住民の利便性を高める I C T 活用について 「デジタル社会の実現」を目指していくためには、住民にとって身近な行政を担う自治体の役割は非常に大きいと言えます。ポイントとなるのは、住民の日常生活における困りごとをデジタル施策で解決を図っていくことが求められている点で、公共施設の予約への S N S 活用、口座振替・振込受付の効率化、粗大ごみの収集受付のオンライン化、地域住民へのスマートフォン貸出しといった対策が重要と思われませんが、市の対応についてお尋ねいたします。 (1) 公共施設予約への S N S 活用について (2) 口座振替・振込受付の効率化について (3) 粗大ごみの収集受付オンライン化の取組について (4) 地域住民へのスマートフォン貸出しについて 3 地域の活力と生活を支えるまちづくりについて 住民が快適に暮らしていくためであったり、地域ならではの魅力及び活力を高めたりするためのまちづくりは、行政にとって重要な責務のひとつであると思われます。そうしたまちづくりを行っていくには、行政にはない民間のノウハウを取り入れることが求められます。特に、公衆喫煙所の新設及びリニューアルや、E B P M の推進、そして高温障害による減収対策等が大きな課題と考えられますが、本市の対応についてお尋ねいたします。 (1) 公衆喫煙所の新設及びリニューアルについて (2) E B P M の推進について (3) 観光が地域にもたらす経済波及効果の検証及び対策について (4) 会津医療センター内への放射線医療機器導入の要望について (5) 高温障害による本年産米の減収対策について
3	1	渡 部 忠 寛	1 小規模保育施設の存続と重要性について 小規模保育施設は、地域における多様な保育ニーズにきめ細かく対応するといった部分の質が確保された保育を提供し、子供の成長を支援するために、0～2 歳児までの子供を、認可保育所より少ない定員である 6 人以上 19 人以下の少人数で運営している。 2015 年度から共働き世帯の増加などの社会背景を受けて 0～2 歳児の待機児童解消を目的に市の認可を受けて設置された小規模保育施設が、昨今の出生数低下により定員割れの施設も見受けられ、存続には柔軟な対応が求められている。受入児童数が低迷している市内の一つの小規模保育施設については、収支の不均衡もあり、今年度をもって閉園という選択に至った。 厚生労働省子ども家庭局では、令和 7 年に未就学児保育を受ける児

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			児童数はピークになると試算しており、市としても保育施設の受入割合や整理が早急に必要と考える。 少人数の温かさを重視し、一人一人に手厚いきめ細やかな保育を提供する姿勢や家庭環境に近い環境の中で、愛着関係を大事にする小規模保育施設はまさに出生してすぐの子供と保護者の拠り所であり、多様な方策を講じながらこれからも残さなくてははいけないと考える。 そこで、次の 3 点について伺う。 (1) 昨今の出生数を勘案し、市内保育施設等の 0 ～ 2 歳児受入人数について、どのように捉えているのか伺う。 (2) 児童数不足などの理由により閉園を決定した小規模保育施設について、どのようにケアをしてきたのか、また今後どのように対応すべきかを伺う。 (3) 周辺の自治体でも同様の現象が起きていると推測するが、近隣の市町村の公立認定こども園・認可保育園・小規模保育施設等の受入幅や割合を参考にして市内の保育施設と協議会等を開催したのか、またはする予定があるか伺う。 2 消防団員出動時における自家用車等移動の補償について 消防団が火災等で出動する際に、緊急車両以外の車(概ね自家用車)で出動する場合がある。 現場までの移動、または帰路に関わる補償や保険は喜多方市では行っていない。 今年度より一部の近隣市町村では、団員が移動する際に使用する自家用車に対し、町村で補償する保険への加入を導入している。また、別の一部の近隣市町村でもこの保険導入について検討される方向である。 火災時・捜索時・災害時等においては、いつもと違う心境(精神的な高ぶり)であったり、普段通らない道・夜間や早朝・雨天時・降雪時などの場合もあるため、運転時の危険性も高くなることが多い。 消防庁が発令した、令和 2 年 4 月 1 日から施行されたマイカー共済制度の中で、見舞金支給制度については上限 10 万円であり、補償が不足する部分については団員個人が加入する自動車保険で対応する他にない。 自家用車などでの移動時に事故が発生した場合は個人の保険に委ねられるため、事故発生時に任意保険を適用した場合、多くの自動車保険契約内容では等級の低下により個人の保険料負担増が長期に発生する(割り増し保険料)。 消防団が要請された活動は、安全に自宅等に帰るまでが公務であり、移動時も市で補償すべきであると考ええる。また、補償されることにより団員の安心感が増し、処遇の向上に繋がると考える。 そこで、次の 3 点について伺う。 (1) 出動要請があった際、移動開始から帰着までが公務と認識するが、市はどのように考えているのか。

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			(2) 移動時の補償について、保険取扱店もあり、出動回数に応じて保険料を設定している保険があると聞いているが、どのように認識しているのか。 (3) 市から消防団のご意見を伺いながら、市の保険導入について協議していただきたいが、見解を伺う。 3 外国人観光客の誘客に向けた取組について 今般の円安で訪日客(インバウンド)が増えており、特に台湾からの観光客が増えているのはマスコミの報道でも周知のとおりである。 今年の10月19日から21日にかけて、福島市では木幡市長をはじめ、市の商工会議所や観光関係団体による訪問団を結成して台湾に渡り、現地の行政機関や旅行会社を訪れて広告や広報などをセールスする、いわゆる観光プロモーション、インバウンドの誘客活動を図っていた。 来月16日からは、台湾最大の桃園国際空港と福島空港を結ぶチャーター便が定期的に運航し、さらに今年度の3月下旬からは、定期便として格上げする見込みとなっている。 まさに今から、これからが観光誘客にとって大きなチャンスであると考えます。 そのような今般の状況を踏まえて伺う。 (1) コロナ禍前とアフターコロナの外国人観光客の入り込みについて、認識を伺う。 (2) 外国人観光客の誘客について、どのように捉えているか伺う。 (3) 訪日客に対して積極的なプランニングが重要と考えるが、今後の市の取組と方針について伺う。
4	5	山 口 文 章	1 包括連携協定について 近年、全国の地方自治体において民間企業と包括連携協定を結ぶ事例が増えています。本市も様々な民間企業と包括連携協定を結んでいます。自治体と民間企業が協力し合うことで、地域住民の暮らしを豊かにすると同時に、企業にも多くのメリットがあります。包括連携協定とは、地域が抱えている課題に対して自治体と民間企業が協力し解決を目指す協定です。地域の課題は福祉・環境・防災からまちづくりまで多岐に渡りますが、本市における包括連携協定について伺います。 (1) 包括連携協定の内容や仕組みについて伺います。 (2) 企業と自治体が連携する具体的なメリットについて伺います。 (3) 現在締結している企業との包括連携協定の実績について伺います。 (4) 今後、どのように取り組んでいくのか伺います。 2 消防団について 2022年4月より、消防団再編を行い新たな人数での活動となりました。また、報酬支払方法も変わり、消防団の現状が大きく変化しています。

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			約3年間、コロナ禍により消防団行事や訓練も中止になっていましたが、今年度から再開できるようになり、通常の活動が行えています。しかし、約3年間の活動自粛で団員を取り巻く生活環境も変化したことにより、消防団の活動に影響が少なくとも出ていると私自身感じております。 そのような中で、今後の消防団活動を支える市の考えについて伺います。 (1) 再編後の消防団員の年間活動及び出勤実績について伺います。 (2) 報酬が団員個人への口座振込になったため、各所で様々な問題が発生しています。団、支団、分団等で今まで対応してきた経費などがありますが、これらの経費について、以前、消防団の運営に必要な経費の予算措置を求めるべきと提案しましたが、その後の検討について伺います。 (3) 喜多方市消防団では、バイク隊など新しい取組を行っています。現状と今後の取組について伺います。 ア バイク隊の現状と今後の取組について伺います。 イ 女性消防団員の現状と今後の取組について伺います。 ウ 報酬が消防団員への個人報酬となったことによる、消防団の事務作業の大幅な負荷軽減及び活動の充実強化に寄与するアプリケーションの導入について伺います。 エ 消防団と自主防災組織の連携について、現状と今後の考え方を伺います。 3 高齢者世帯等除雪支援事業について 本市では、高齢者世帯等で自力による除雪が困難な世帯に対し、除雪作業の支援を行い日常生活の維持確保や、経済的負担の軽減を図る目的としてこの事業を行っています。平成30年度より事業対象を拡大し、利用者の増加が見込まれることから、地域の除雪作業の担い手を募集し取り組んでいます。 そこで、高齢者世帯等除雪支援事業について伺います。 (1) 事業概要、支援内容について伺います。 (2) 利用者登録方法と過去3年間の利用実績について伺います。 (3) 支援事業者と地域の団体、グループの登録数について伺います。 (4) 利用者への周知方法と事業者及びグループへの周知方法について伺います。 (5) 作業委託料と自己負担額について伺います。 (6) 担い手の方が加入される保険内容及びこれまで除雪支援事業において事故や苦情等があったのかについて伺います。
5	20	齋 藤 仁 一	1 新年度予算編成について (1) 2024年度予算編成は、中期財政計画に示されている歳入歳出計画の見込みどおりか。見込みと相違があったとすれば、どのように修正して予算編成をする考えか伺いたい。 (2) 財政指標の健全化の状況はどうなっているのか。また、その状況

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			をどう判断し、どう財政運営しようとしているのか伺いたい。 (3) 現在進行中の大型事業の終期はいつか。また、今後着手する大型事業については、その時期がいつになるのか、その財源の見通しと財政運営への影響について伺いたい。 2 喜多方市立小中学校適正規模適正配置第1次実施計画(案)について (1) 第1次実施計画(案)について、各地区での説明会が開かれたが、どのような意見があったのか。この意見を受けて総合教育会議、教育委員会及び適正規模適正配置審議会では、どのような意見が出され、どのような協議がなされたのか伺いたい。 (2) 今後、該当地区での保護者会及び行政区長会で合意形成を図っているが、その理由は何か伺いたい。 (3) 適正規模適正配置にあたって配慮すべき事項の一つで「障がいを持つ児童・生徒へ配慮し、特別支援教育の充実を図る」としているが、障がいを持つ児童・生徒の実態はどうなっているのか。また、具体的にどのような特別支援教育の充実を図るのか伺いたい。 (4) 統廃合の要因に人口減少があるが、総合教育会議及び教育委員会においてそのことの検証はどう行われたのか。また、市として今後どのような対策を講じるのか伺いたい。 3 ごみ処理施設と循環型生ごみ処理の仕組み作りについて (1) 喜多方地方広域市町村圏組合で運営している山都工場可燃ごみ処理施設の老朽化に伴い、現在建て替えを検討しているが、タイムスケジュール及び検討内容はどのようなものか伺いたい。 (2) 生ごみの処理方法は、堆肥化による循環型社会の形成、また、生ごみとし尿を処理しエネルギーにする方法などがあるが、これらの処理方法を導入し、循環型社会形成のための検討をすべきと考えるがどうか。また、構成市町村での協議も同時並行的に進めるべきと考えるがどうか、伺いたい。 (3) 可燃ごみ処理施設建て替えに伴う財政負担の見通しはどうか。また、市の財政計画に位置づけて対応すべきと考えるが、伺いたい。
6	7	遠 藤 吉 正	1 予算編成方針及び財政状況について 令和6年度当初予算編成方針が示されたが、新型コロナウイルス感染症の位置づけの変更後も厳しい経済状況及び不安定な国内外の動向の影響により、本市においても厳しい財政状況は常態化していると言わざるを得ない。 そこで、この状況を踏まえ令和6年度当初予算はどのように編成するのか、また、現在の本市の財政状況について市民へも説明すべきとの考えから伺う。 (1) 令和6年度当初予算編成の基本的な考え方について ア 当初予算編成の基本的な考え方について伺う。 イ 令和5年度に示された中期財政計画との整合性について伺う。 ウ 人件費、公債費、扶助費等の経常的な歳出について伺う。

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			エ 自主財源及び財政調整基金の確保について伺う。 (2) 財政状況について ア コロナ禍後の本市の財政状況をどう捉えているのか伺う。 イ 現在の財政状況における市民生活への影響について伺う。 2 経済対策について 新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更になり、社会全体が以前の状態に戻すべく取り組んでいるが、経済を取り巻く状況は国際情勢を含め未だ厳しい状況にある。特に、各企業はゼロゼロ融資の返済が始まり、賃金対応、未だ収束が見通せない原油価格・物価高騰の波、少子高齢化に伴う働き手不足等多くの課題が山積している。このような状況下において、本市の経済状況を把握し、支援対策を講じるべきとの考えから伺う。 (1) 本市の経済状況について ア 本市における現在の経済状況をどのように捉えているのか伺う。 イ 本市企業の経済状況についてどのように捉えているのか伺う。 (2) 今後の支援策について ア 各企業はこれからさらに厳しい年末、年度末を迎えるが、対策として各関係団体との連携及び商工課内への相談窓口設置について伺う。 イ 会津喜多方商工会議所から「持続可能な地域経済確立に向けた中小・小規模事業者への支援拡充について」という要望書が提出されたが、どのように捉え、今後どのように支援していくのか伺う。
7	12	渡 部 一 樹	1 女性が輝く社会の創造について (1) 男女共同参画社会づくりの基本方針について伺いたい。 (2) 総合計画に定める目標値の達成状況について伺いたい。 (3) 市職員と市幹部の女性の割合を半数にすることを市が宣言することで、市と組織の活性化が図られると考えるが、市長の見解を伺いたい。 2 財政について 令和6年度当初予算編成方針に基づき、以下の点について伺いたい。 (1) 今後の財政運営の最大の課題とする「基金残高の回復」は、どの程度の水準をどれくらいの期間をかけて行うのか、見解を伺いたい。 (2) 事業のスクラップアンドビルドについて、考え方を伺いたい。 (3) 令和6年度から会計年度任用職員への勤勉手当の支給が可能になることにより経費の増大が見込まれるが、基本的な対応方針について伺いたい。 (4) 旅費については「原則職務上参加しないと今後の業務に多大な影響が見込まれる場合を除き、(中略) リモート参加などに代替し削

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			減を図ること。」とされたが、職員の出張・研修の必要性は高まっていると考える。方針を変えるべきと考えるが、見解を伺いたい。 (5) 「公共施設総合管理計画に基づく施設統廃合の実施についても検討すること。」とあるが、令和6年度に統廃合を予定する施設はあるのか伺いたい。
8	6	十二村秀孝	1 令和5年産米の作柄概況について 令和5年産米を取り巻く環境は、夏の酷暑の影響により例年に比べて品質低下や収量減少を招き、さらには燃油価格高騰など生産費の上昇も加わり農家を苦しめました。 そこで、次の3点について伺います。 (1) 本市の作柄等の現状をどのように捉えているのか伺います。 (2) 等級低下の要因をどのように分析しているのか伺います。 (3) 今後の支援策について ア 等級低下となった農家を対象に救済措置は必要であると考え るが、市の考えを伺います。 イ J Aや全農県本部に対して何らかの支援策を求めるべきと考 えるが、市の考えを伺います。 2 今後のグリーン・ツーリズムの推進について 令和3年3月定例会において質問しましたが、令和8年度まで受入 農家を160戸に、交流人口を1万3,900人、教育旅行9,000人を目標 に推進していくとのことでした。 そこで、次の4点について伺います。 (1) 受入農家数（農業体験・農泊）の過去3年間（令和3年～5年） の推移について伺います。 (2) 受入件数実績（農業体験・農泊）の過去3年間（令和3年～5年） の推移について伺います。 (3) これまで実施した誘致への具体的な取組について伺います。 (4) グリーン・ツーリズム交流人口の目標達成には何が必要であると 考えているのか伺います。 3 全国市町村交流レガッタ喜多方大会について 令和8年に全国市町村交流レガッタ大会が荻野漕艇場で開催され ることが決定し、県においては来年度以降、全面的な改修工事を実施 する方針である。 そこで、次の3点について伺います。 (1) 改修工事の詳細はどのようなになっているのか伺います。 (2) 関係者を含め800人規模を見込んでいるということであるが、 運営方針はどのようなになっているのか伺います。 (3) 現在の維持管理経費は県と市で折半しているということである が、その経緯について伺います。
9	21	山 口 和 男	1 地域公共交通について (1) 公共交通の一翼を担う市内の某業者が破産申請の準備に入った との記事が10月12日の民友新聞、民報新聞に出ていたが、「のる

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			一と喜多方（みんなの号）」等、市の事業への影響はどうか、現状と今後の見通しはどうか伺う。また、破産申請の準備とはどういうことなのか、それで市との契約は有効なのか伺う。 (2) 朝の病院への送迎や介護で利用する方への対応や、夜の町で帰りの足がないと嘆き、飲食する客の減少で市内経済の活性化に水を差す現状の打開策について、市の現状認識と対策を伺う。 (3) その市内某業者再出発のチラシが11月16日に入ったが、破産申請の準備から約1ヶ月で立て直しができたと理解してよいか、市の認識を伺う。
			2 人員配置について (1) 商工課に参事、課長を配置した狙い、目的は何だったのか。誰に指揮命令権があるのか、産業部長なのか参事なのか、同課の6人の職員も戸惑っているように見える。2人の管理職を配置して当初の目的は達成できたのか伺う。 (2) やたらと参事を増やし、主幹を配置することは年功序列の弊害ではないか。定期昇給やベースアップの基準を明確にすべきでないと考えるが、市の見解を伺う。
			3 物価上昇に関しての市長の見解について (1) 「物価がどんどん上がっているにもかかわらず、賃金上昇は追いついていないので国民の負担を緩和する」として、政府は税収増の還元策として国民1人当たり年4万円の定額減税を行うことを約束し、実施時期は来年の6月としているが、これでは遅すぎる。来年6月に1人当たり4万円の定額減税を行うことについて、市の見解を伺う。 また、そこで提案であるが、1万円でも多くという気持ちは痛いほど分かるため、市独自の給付金として市民1人当たり1万円が届くように、今年度中に施策を実施すべきと考えるが、いかがか伺う。 (2) 11月16日付けの民友新聞の記事に、非課税の低所得世帯への7万円給付を早期に行うため、政府が自治体に補正予算編成を催促する通知を2度にわたり出したとあったが事実か。また、そのことをどのように捉えているか伺う。 (3) 重点支援地方交付金1兆5,592億円のうち、低所得世帯への給付に1兆592億円、残りの5,000億円はその他の物価高対策分とし、自治体が地域で利用できるプレミアム商品券の発行などに使うことを想定しているとの報道があるが、本市での活用法を伺う。
			4 除雪事業について 業務受託者連絡協議会会員である各業者の請負金額があまりにも開きが大きくて一体どうなっているんだとの市民からの問い合わせや、通学・通勤に間に合うように除雪ができないかとの苦情も多く、市の指導を疑問視する声が多く聞かれる。これらに対する市の見解を伺う。
10	2	田 中 修 身	1 高齢者の補聴器購入助成について

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			(1) 高齢者の加齢性難聴（老人性難聴）は、認知症の危険因子と言われています。補聴器は、難聴の様々な症状に対応するため、多くの機能を搭載している医療機器です。そのため、片耳でも10万円以上と大変高額です。しかも機器の寿命は5年程度です。単に音を大きくする機器（集音器は、1万円～2万円）とは違います。高齢者が年金の中から購入するには負担が大きすぎます。加齢性難聴による補聴器装用への助成を求めます。市長の考えを伺います。 (2) 補聴器は、眼鏡のように購入してすぐに使用できるものではなく、ある程度の訓練が必要と言われています。早期発見のためにも、健康診査での高齢者の聴覚検査を行い、補聴器相談医の受診・精密検査等につながるようにしてください。市長の考えを伺います。 2 小中学校適正規模適正配置第1次実施計画（案）の変更について (1) 第1次実施計画（案）の変更が行われました。それによると熱塩小と加納小の統廃合には、準備期間が1年しかありません。 今後、校舎内・外の大規模な修繕などハード面の環境整備も必要となってくると考えますが、市長の考えを伺います。 (2) 計画（案）のとおり、令和8年度に喜多方二中と会北中の統廃合が行われると、熱塩加納学校給食共同調理場が給食を提供する学校は、現在の3校から1校となってしまいます。全国からも評価の高い「熱塩加納方式」は堅持しなくてはなりません。食数のみで喜多方学校給食共同調理場と統合することのないよう求めます。市長の考えを伺います。 3 小中学校における教職員の働き方改革について (1) 教育委員会が令和3年3月12日に決定した「喜多方市小中学校における働き方改革取組方針」の中に「5取組の検証及び支援」という項目があります。勤務実態の調査と検証の内容について伺います。 ア 時間外勤務の状況について（小学校・中学校別） ① 時間外勤務を月45時間以上行った教職員の割合 ② 時間外勤務を月80時間以上行った教職員の割合 ③ 時間外勤務の最高時間数とその職名 イ 検証内容について (2) 今の教職員がおかれている長時間過密労働を解消するためには、国においては、教職員定数を抜本的に改善し、教職員を大幅に増やすことであり、市教育委員会においては、教育政策の大胆な見直しとスクラップが必要です。働き方改革への具体的施策を伺います。
11	9	小 島 雄 一	1 農業経営の安定対策について この時期は、農業経営においては、ほとんどの作物の収穫が終了し、来年度に向けての経営計画を考える時期である。本年は新型コロナウイルスの5類移行により、景気回復と消費拡大が期待された。 また、米価も一定の上昇があったが、夏の異常高温の影響は作物全

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			般に及び、著しい品質の低下や収量の減少を招いている。営農の継続のため、何らかの対策が必要と考える。 そこで伺う。 (1) 水稻、ソバ、アスパラガス、キュウリ、トマト、チェリートマトの収量、品質、価格を伺う。 (2) 水稻においては高温耐性品種の導入が必要ではないか、考えを伺う。 (3) 飼料用米における品種指定の影響をどう考えるか伺う。 (4) 被害を受けた農家への支援が必要ではないか、考えを伺う。 (5) 黒毛和牛子牛の市場相場が大幅に下がっている。緊急の対策が必要ではないか、考えを伺う。 2 塩川町の西岡共同墓地について 墓地の概要は、区画数 308 区画、面積は 7,398.23 m²であり、明治期から地域の共同墓地として使用されてきている。昭和 27 年に移転や買収地を加え、塩川町の経営する墓地になったことを 9 月定例会で伺った。 そこで伺う。 (1) 墓地関係者の意向の聞き取りを行ったのか。また、その内容はどうかであったのか伺う。 (2) 荒廃している区画が 70 区画程度あり、現在の使用者の把握も半数ほどということだが、管理体制の整備をどうするのか伺う。 (3) 条例を整備し、次世代に引き継ぐ管理体制にすべきと思うが、考えを伺う。
12	3	坂内まゆみ	1 地域への愛着形成と地域内通学について (1) 地域への愛着形成は、生まれ育ち、地域の学校へ通うことで、同じ地域に住む児童間での交流や地域住民との関わりを通して育まれるものであると考えています。愛着形成は、地域の活性化や地域内の支え合いにつながるものと考えますが、市の見解を伺います。 (2) 現在、郊外の小中学校においては、毎年学区外への通学が増えていると聞き及んでいます。ここ 5 年間で学区外へ通学している児童・生徒の推移と、主な理由について伺います。 (3) 家庭の事情や健康理由などやむを得ない場合以外でも、住んでいる地域の小中学校へ通学を希望しない保護者がいると聞き及んでいます。これは、住んでいる地域の小中学校へ通うメリットを保護者が感じられないことが原因ではないかと考えますが、学区外への通学を希望する児童・生徒の保護者への聞き取りはどのように実施しているのか伺います。また、聞き取りの結果をもとに、現状をどのように分析しているのか伺います。 (4) 郊外の小規模の学校だからこそ、先生との距離や地域住民との交流、その地域ならではの行事など、すばらしい取組をしています。こうした学校の良い部分をもっと P R し、これから入学する子供の保護者へ伝えられるような対策が必要と考えますが、見解を伺いま

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			す。 (5) 地域内の子供たちを地域全体で見守り、育てていくことが地域への愛着形成につながり、次世代の地域の担い手となっていくものと考えます。郊外の小規模の小中学校がより地域の特性に応じた活動をしていくために、市としても支援をしていくべきと考えますが、市長の見解を伺います。 2 安全・安心な学校通学について (1) 昨今は、不審者や熊の出没など、子供たちの安全・安心な学校通学が脅かされています。保護者によっては、送迎が難しいケースもあると思われそうですが、どのような対応をしているのか伺います。 (2) 今年は特に熊が頻繁に出没し、子供たちの通学路や集合場所付近でも目撃されています。A I オンデマンド交通「のるーと喜多方(みんべえ号)」やスクールバスは、子供たちが「安全・安心」に登下校できるものであり、特に自宅まで乗降地点を設定できる「のるーと喜多方(みんべえ号)」は、大変すばらしい通学支援であります。熊出没が年々増加している昨今、「のるーと喜多方(みんべえ号)」での通学支援は、郊外地域の小中学校への通学メリットの一つとして非常に大きいものと考えますが、補助エリア拡大及び中学生までの対象拡大ができないか伺います。 3 管理されていない放置建物について (1) 市内のあちらこちらには、放置され朽ち果てた建物や空き家が見られますが、こうした建物は景観を損なうだけでなく、獣の住処になったり、倒壊の恐れがあったりするなど、危険性が伴います。市としてどのように把握し、対策をしているのか伺います。 (2) 放置された建物の近隣住民は不安を抱えています。持ち主や行政区または市へ対処してほしいとお願いしてもそのままのケースが多いものと感じています。強制的に解体できるような仕組みが必要と考えますが、見解を伺います。
13	4	高 畑 孝 一	1 豊かな山林の再生に向けた取組について 近年の豪雨災害を見るにつけても、山林の大規模な伐採、植林、次の適期まで50年以上という手法では、災害発生の危険性が高すぎます。 また、これでは多額の資材投資が必要です。そこで注目されているのが自伐型林業です。この取組を進めることは容易ではありませんが、荒れた山を見るにつけ、この取組が必要と考えます。 よって、以下の点について質問いたします。 (1) 森林環境譲与税の活用状況と今後の方針について伺う。 (2) 県の補助事業のうち、市が着目する補助金制度を伺う。 (3) 自伐型林業の広がりが注目されているが、市としての考え方を伺う。 (4) 森林・山村多面的機能発揮対策交付金について、市の考え方を伺う。

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			(5) ナメコやシイタケなどのキノコ栽培に関する具体的取組を伺う。
14	8	菊地とも子	1 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の活用について (1) 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の金額を伺う。 (2) 交付金を活用してどのような事業を行うのか伺う。 (3) 低所得世帯への支援について (4) 子育て世帯に対する支援について (5) 学校給食の無償化について 2 干ばつによる被害について (1) 農作物の被害状況及び被害額について (2) 支援策について
15	15	齋藤勘一郎	1 災害復旧について (1) 工事の発注状況について ア 8月18日以後の農地・農業用施設の未受注工事件数(40)、及び未受注工事箇所数(85)の進捗状況を伺う。 イ 同じく林業施設についても伺う。 (2) 市単独補助事業による農地・農業用施設87か所の工事の進捗状況について伺う。 (3) 仮復旧工事の水路等の今後の見通しについて伺う。 2 ソバ栽培の振興について (1) 市内のソバの作付面積はどのように推移しているのか伺う。 (2) 令和5年産の作柄について、どのように分析しているのか伺う。 (3) 今後のソバ栽培の振興について伺う。
16	10	矢吹哲哉	1 物価高騰対策について 岸田内閣の物価高騰・経済対策に対して国民はノーの意思を示していることが、世論調査で明確になっている。 そこで、市長に以下の点を伺う。 (1) なぜ岸田内閣の物価高騰・経済対策が不評なのか、市長はその要因をどう分析しているのか伺う。 (2) 市独自の物価高騰・経済対策について伺う。独自対策を緊急に示すべきと考える。せめて昨年並みの対策を打つべきではないか、市長の見解を伺う。 (3) 住民税非課税世帯への福祉灯油・1世帯1万円を求めるが、伺う。 2 農林業振興計画・農山村総合整備計画について 農林業振興計画・農山村総合整備計画の展望を、旧市町村単位に示すことが求められていると考える。 そこで、市長に以下の点を伺う。 (1) 集落ごとに作成していた人・農地プランが旧町村単位で地域計画として市が作成することが法定化され、現在地域で話し合いが進められている。 市は、市農林業ビジョンの目標、計画を見直し、集落ビジョン、地域計画づくりに積極的に取り組むことが必要と考えるが、市長の考えを伺う。

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			(2) 市立小中学校適正規模適正配置基本方針、第 1 次実施計画（案）では、複式学級等が生まれたら統廃合を検討するとしているが、農山村・旧町村に小中学校を存在させるという方針に転換し、小さな拠点を通して農林業振興と農山村振興を一体に進めるべきと考える。市長の見解を伺う。
17	17	伊 藤 弘 明	1 国道 121 号（米沢～喜多方間）高規格道路整備実現同盟会について (1) 同盟会設立に至るまでの経過について (2) 同盟会の組織について (3) 今後の運動について 2 林道新町線について (1) 林道新町線の現状について (2) 林道として整備できないものか。 3 ふるさと納税に対する対応について (1) ふるさと納税は、物産の振興などとともに本市にとっては財政問題でもあると思うが、いかが考えるか。 (2) 小さい都市や町でも、100 億円を超える実績を上げるところがある。本市も頑張ってみるべきと考えるがいかがか。
18	18	渡 部 勇 一	1 旧県立東高校跡地利用について (1) 県との話し合いの進捗状況は。 (2) 庁内検討会議の内容は。 (3) 市民の意見聴取の手法とスケジュールは。 2 市長の政治姿勢について 各総合支所地域の活性化策と事業は何か。 3 観光行政について (1) 観光による経済効果の推移はどのようになっているのか。また、この結果に対しての評価はどのように捉えているか。 (2) 観光客の消費額の増額を図る施策が必要と考えるが、その施策は何か。
19	16	佐 藤 忠 孝	1 1－4 号線豊川・慶徳線改良工事の進捗状況について 1－4 号線については、喜多方市の外環状道路整備について早期に進めるべく、今まで一般質問をいたしてまいりました。皆さんご存じのとおり、桜ウォークの時を見れば多くの方が経験していることと思います。 そこで、次の 6 点についてお伺いいたします。 (1) 前回の一般質問では、令和 5 年度完成の予定だという答弁でありました。事情により工事が遅れておるようですが、現在はどうになっているのか、また今後の工事の進捗状況をお伺いいたします。 (2) 国道 121 号交差点の取付部分についても質問いたしてまいりましたが、現在の取付道路の変更はどのようになっているのかお伺いいたします。 (3) 旧道の取付道路の廃道についてはどのようになっているのか、確認

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			のためお伺いいたします。 (4) 集落からの道路等に関して要望等はあったと思いますが、交通事故の発生が多いため、今後の工事では事故が起きないような工事だと思います、私も一般質問をしておりますが、この件については公安委員会の話だと思いますが、どのようになっているのか、考えをお伺いいたします。 (5) 今回の1－4号線跨線橋工事ではありますが、何か問題になる部分はないかお伺いいたします。 (6) 前項までの質問を踏まえ、今回の事業についての今後の効果をどのように把握しておりますか。また、今後、市として再度何か検討し、対策をする考えはあるのかお伺いいたします。
			2 蔵の湯入口の道路改良工事について ふるさと創生事業として、昭和63年から平成元年にかけて、国が各市町村に対して地域振興のために1億円を交付し、喜多方市でも1億円の交付金を頂きました。 それに伴い、蔵の湯を造り、市民の皆様の憩いの場として活躍しておりますが、駐車場は整備してから30年以上経過しております。また、国道121号についてはバイパスも開通し、それに伴い、道の駅もでき、最近大型自動車の駐車が多く舗装の傷みが激しくなっており、蔵の湯へ来場するお客様方からの苦情も多く出ております。 国道121号から駐車場までの数十メートルの全面舗装工事が早急に必要であると思いますが、当局の見解をお伺いいたします。